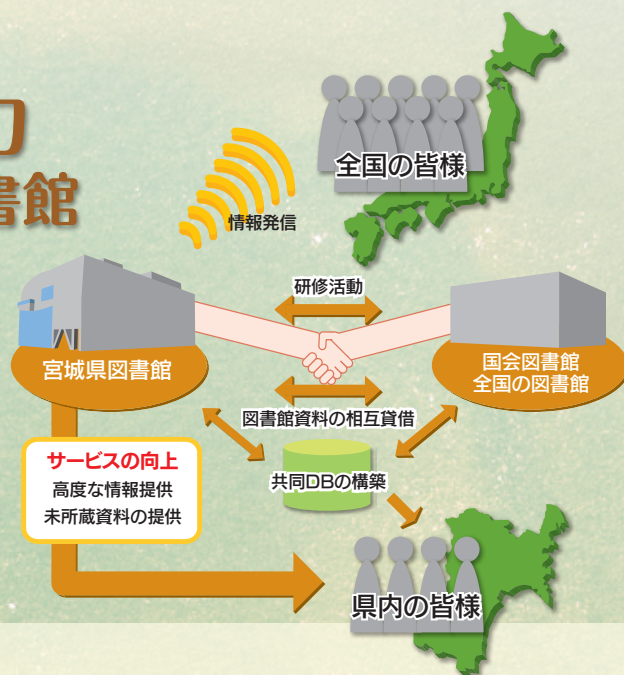


特集

図書館間の連携・協力 ～繋ぐ・繋がる宮城県図書館

宮城県図書館は、県内の公共図書館と協力し、県民の皆様全てに幅広くサービスを行う図書館であると共に、より高度な情報提供要求に応じていく図書館であるべきだと考えています。そのために、全国の図書館と連携・協力してサービスの質の向上を図っています。今回は、全国と“繋ぐ・繋がる”宮城県図書館の活動を御紹介します。



資料の相互貸借

図書館の最大の役割の一つは、県民の皆様の要求に応えるために幅広い図書館資料を収集することです。しかし、現実問題として、一つの図書館が収集できる資料には限界があります。国内で年間に発行される8万点以上の出版物を全て揃えることは、予算の面からも収蔵能力の面からも現実的ではありません。また、過去に絶版してしまった資料や一般に販売されていない資料、特定の地域でのみ頒布された資料など、新たに購入することが難しい資料も存在します。これら自館で所蔵していない資料を利用者の皆様に提供する

ため、全国の図書館はお互いに連携・協力し相互に貸借することで皆様の要求に対応しています。

宮城県図書館でも本館や県内の図書館で所蔵していない資料については、全国の図書館や国立国会図書館などから借用して資料の提供を行っています。

また、本館からも全国の図書館に対して、資料の貸出を行っています。平成24年度実績では、686冊の資料を貸出しました。

共同データベース構築作業への参画

資料の相互貸借を行うためには、求めている資料を全国のどの図書館で所蔵しているか調べる必要があります。このとき使うのが総合目録データベースの「ゆにかねっと」です。

「ゆにかねっと」は、全国の都道府県立図書館等が所蔵している和図書資料の所在情報をデータベース化したもので、一般の方も「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」から利用できます。本館では、「ゆにかねっと」が本格稼働する前からプロジェクトに参加し、本館の所蔵情報の提供や、仕様策定に協力してきました。

また、全国1,200の大学図書館等が参加した学術情報データベースである国立情報学研究所の「CiNii Books」にも本館の13,000件近い所蔵雑誌の情報を提供しています。これはこのデータベース

に参加する公共図書館最大のもので、週刊誌など大学図書館ではあまり所蔵していないタイプの資料も登録しているため、全国から本館所蔵雑誌の利用などに関する問い合わせがあります。

さらに、全国の図書館が日々利用者の皆様から受ける調査・相談依頼及び回答(レファレンスサービス)の記録をデータベース化した「レファレンス協同データベース」にも平成16年から参加しています。平成24年度末現在624件の事例を登録し、検索等により24万回以上参照されています。これらの利用実績に対し、平成24年度は国立国会図書館から感謝状をいただきました。

本館は、今後もこれら共同データベースの構築に関わり、全国的な知の集積に協力して行きます。

研修活動

利用者の皆様の要望に応えるため図書館員は自己研修などを含めた様々な研修活動を行っています。昨今は、情報化社会における利用者の皆様からの高度な要求に応じるため、より幅広い知識と経験を得る研修活動を実施していくことが求められています。

本館では、今年度11月末に文部科学省と共催して平成25年度図書館地区別(北日本)研修を開催します。これは、北日本地区の中堅図書館司書を対象とした「地域における情報拠点として図書館」をテーマに行う研修です。

ここでは、図書館経営や震災に対応した危機管理に関する知識の習得、さらには実践的なカウンターの装飾など、個々の図書館では実施が難しい様々な研修活動を県域を越えた規模で実施し、図書館員の資質向上を目指します。それが、利用者の皆様へのサービス向上へと繋がることにもなります。

